



総合教育センターだより

Be Connected



センターマスコット センタ君

平成23年11月16日(水)
第32号(通算第115号)
京都府総合教育センター
TEL: 075-612-3266

コミュニケーション能力・チームマネジメント能力 **高める!**

教職員にとって、子ども、保護者、同僚、地域関係者をはじめさまざまな人たちと良好なつながりを持つことは大切です。また、個々の教職員の力を生かし学年や学校の組織として課題に対応していくことも大切です。

そのため総合教育センターでは教科・領域等に関わる実践的指導力を高める講座の他に、対人関係能力を高めるための「コミュニケーション能力」と「チームマネジメント能力」についての講座を開設しています。

今年度の講座の様子の一部をご紹介します。受講されなかった方は是非、次年度以降に受講してみてください。

「コミュニケーション能力」

さまざまな価値観を持つ人々と人間関係を結び、さらには課題について考え合い合意形成できることは、教職員にとって必要な資質です。

たとえば、総合教育センターの「コーチング」実践演習講座では、講義や演習を通して次のようなスキルを学びます。



傾聴 傾聴とは、真心をもって、素直に、相手の心の声を積極的に聴く姿勢のことです。

承認 タイミングよく心をこめて認めたり、ほめたりすること。つまり、相槌(あいづち)を打ったり相手の話す内容をなぞったりすることで共感を表現することです。

質問 適切な問いかけによって、相手の中にある答えを引き出すこと。講座では、特に拡大質問(「どのようにして」「どうして」といった、相手が自分自身の考えを振り返り、深められる広がりをもった質問)の仕方について学びます。



コーチング
実践演習講座Ⅱ

10月17日(月)
実施(北部研修所)

<感想>
今日、学んだ「傾聴・承認(コーチングの理論・手法)」を日々の実践の中でとり入れ、子どものやる気を引き出し、子どもが納得する生徒指導をしていきたい。
また、このスキルを日常的に先生方に伝えていきたい。

「チームマネジメント能力」

毎年かわっていく子どもや保護者をはじめ、内外の環境の変化に対応しながら、教育目標を達成していくことが学校に求められています。そのためには、学校の教育活動について、教職員一人一人が協働参画の意識を高めることが大切です。今年度実施した「チームマネジメント能力」を高める講座の中には次のようなものがあります。

地域とともに歩む「学校内外環境分析」講座

学校内と学校外の環境を分析することによって、人的な能力や資源などを開発・活用し学校組織の活性化を図る方法や目標づくりのポイントを学びます。



企業体験講座Ⅰ～Ⅲ

京都の伝統産業・先端産業の企業を会場に、生産現場の見学、経営理念・組織マネジメントに関わる講義、自校の学校運営についての研究協議などを行います。

教育法規演習講座

学校事故や保護者の苦情への対応など、学校に関わる教育法規についての弁護士による講義、事例についての演習を行います。



危機管理講座Ⅱ

10月7日(金)実施
(北部研修所)

<感想>
記者会見の模擬演習では、事象等の説明の仕方など技術的なこと以上に真摯に謙虚に対応すること、また教育の専門家として信念と責任感を持つことが大切であると思った。学校における危機管理・危機対応について再点検したい。



小学校では4校に1校、中学校では4校に3校で「別室登校」

総合教育センターでは、昨年度、各学校の協力を得て、「別室登校」児童生徒の実態調査を行いました。（京都市立、私立を除く府内全小中学校対象）その結果、小学校では63校（全学校数の25.8%、延べ111人）、中学校では77校（77.8%、延べ340人）が「別室登校」として児童生徒を受け入れていることがわかりました。また、分析の結果、「別室登校」が不登校児童生徒の教室復帰に効果があることも明らかになりました。

今年度も昨年度に続き、「別室」における児童生徒への教職員の効果的な関わり方に焦点を絞り、研究指定市とともに調査研究を行っています。

今回の調査研究では、教職員だけでなく、「別室」を利用していた児童生徒やその保護者にもアンケート調査を行い、校種や児童生徒の発達段階による効果的な関わり方をはじめ、学校現場での「別室」指導に役立ててもらえるような内容で研究を進めています。研究結果は来春に公表する予定です。

※ 昨年度の研究については今春、各校に配布された冊子「『別室登校』～別室登校児童生徒の実態把握と支援の在り方～」(京都府教育委員会)をご覧ください。府教委のHPからもダウンロードできます。

12月4日～10日は人権週間です。 人権教育の充実のために



12月4日～10日は人権週間です。センターでは今年度「人権教育講座Ⅰ・Ⅱ」を実施しました。人権教育に関わっては文部科学省が「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」を公表し、指導の改善・充実に向けた視点を示しています。その中で、人権についての知識を学ぶとともに、人権感覚を培うことの大切さが指摘されています。また、教科指導、学級経営、生徒指導等あらゆる教育活動を通じて人権尊重の視点からの学校づくりを進めることや、体験的な人権学習を進めることの重要性も強調されています。

教職員自身には、人権尊重の理念を正しく理解し、自らの人権意識の一層の高揚を図れるような校内研修が求められています。

人権学習や校内研修では是非、下記の資料もご活用ください。

【人権学習に関わる府教委作成資料】

- ・人権学習資料集（小学校編Ⅰ～Ⅲ、中学校編、高等学校編）

人権教育講座Ⅱ

10月4日（火）実施
（総合教育センター）

<感想>

子どもの状況、子どもの学力を生活背景から捉え直すことの大切さ、困難な課題のある子どもたちに寄り添うことの大切さなど成山治彦先生（大阪教育大）にご講演いただいた内容は、人権教育だけでなく日常の教育の中で教師がもたなければならない視点、取組であったと思います。改めて人権教育が教育の原点であるとの認識を持ちました。



各校の人権教育の状況について協議し、ポスターセッションで発表しました。



お願い センター研修での学びを校内にも!

校内での取組の募集!

センターで学んだ講座内容を職場で広く活用していただくため、「このようにして職場でみんなのものにしている」という効果的で具体的な事例を、是非、お教えてください。お寄せいただいた事例を「センターだより」で紹介させていただきます。

<連絡先>

電話 075-612-2950
総合教育センター企画研究部へ
お願いします。



<メンタルヘルスひとロメモ>

「自分は大丈夫」と思っている人もストレスが過重になるとメンタルヘルスの面で問題を抱えてしまいがちです。常日頃から自分の体調や心の状態を感じとって、心身とも、よい状態を保てる自己管理能力を身に付けることが大切です。判断力、決断力、思考力が落ちたり、人に会うのが疲れたりしたときは、無理せずに、のんびりする時間を持ちましょう。

ストレスに対処しにくいときは、総合教育センター教育相談部(申込先: mental@kyoto-be.ne.jp)や、「教職員健康相談24」でも相談できます。

